

平成 30 年度 開智国際大学入学式 学長式辞（抜粋）

新入生の皆さん、ご入学おめでとう。

皆さんのご入学を、私たち教職員・在学生ともにお待ちしておりました。季節の花が美しい春の日に、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、平成 30 年度の入学式を執り行うことができますこと、大変うれしく光栄に存じます。

ご家族の皆様、ご子息、ご息女のご入学、真におめでとうございます。晴れの日をお迎えになり、お喜びも一入のことと存じます。心よりお祝い申し上げます。

新入生の皆さんは、教育学部と国際教養学部の第二期生として、大きな希望を胸に、決意も新たに大学の門をくぐられたことでしょう。

開智国際大学の大学名にふさわしく、一昨年より、さまざまな国から留学生を迎えております。今年は、中国、ベトナム、ネパール、スリランカ、ウズベキスタン、バングラディッシュ、ペルーから、そしてもちろん日本の学生たちも集まっています。

開智国際大学の学生として、留学生の皆さんは、日本語を覚え、日本の歴史や文化を理解し、日本の地域社会に生活者として馴染むことにより、また、日本人の学生は留学生と席を同じくして共に学び合うことにより、日常のコミュニケーションを通して様々な国の文化や生活を知り合うことにより、相互に理解を深め、援け合う心を培っていただきたいと思います。

本日は、皆さんの新たな目標に向かう歩みが始まる「出発の日」です。高校時代とは全く違った学びの日々が始まります。高校では、ほとんどの授業を、学校で決められた時間割どおりに受けなければならなかったことでしょう。あまり得意ではない科目の勉強もしなければならなかったかもしれせん。

ところが、大学では、必修科目がいくつかはあるのですが、多くは、自分で選択します。授業をデザインするのは皆さん自身なのです。皆さんが自分で考えながら、自分の学びの枠を作っていきます。

大学では、なぜこのような方法で「学びの枠」を自分で決めるのでしょ

うか。それは、「考える」大人になるために、「自立できる」大人になるために、大学では個人の学びの自由を大切にしているからです。

変化が激しく多様な価値観がぶつかり合う 21 世紀の社会では、過去の経験や事例が、以前ほど役に立たなくなっています。現状を分析し、目的や課題を明らかにし、自ら考え行動する力は、いま最も必要とされる能力です。何事も受けて立つ強靱な精神力、状況を見極める判断力、自分の意見を大切にしながらも環境に適応する柔軟な対応力、そして何事にも果敢に立ち向かう挑戦力が求められるのです。これこそは教育学部、国際教養学部に通ずる本学の学びの礎であり、皆さんを育む力であり、オールラウンドな「人間力」の育成につながっています。

数学者の藤原正彦氏は、エッセイストとしても有名です。教養人でもある藤原氏のエッセイは、話題も豊富で、話に深みがあり、独特な表現が魅力的です。映画監督、タレント、そして数学好きでも有名なビートたけし氏との対談の中で、数学の魅力について語り合います。「数学は、正解を得られるまでに時間がかかる、数年かけても挑戦する集中力と忍耐力が必要です。注目される立派な研究ほど成果が出るまで、どんな天才であっても挫折に次ぐ挫折の連続です。だから、楽観的に思わないとやっていけないのです」と藤原氏はたけし氏に話します。

「アメリカのスタンフォード大学教授で、世界で最も権威ある数学賞のフィールズ賞受賞者の今は亡き Paul Cohen 氏は、どんな問題を見せられても、すぐに“*Oh, it's so easy*”と言います。そういっても解けないことが多いのですが、“*Oh, it's so easy*”と思わないと、人間の脳は委縮して働かない。まず“*Oh, it's so easy*”で自分を勇気づけることです。これは数学に限らず、人生すべてで言えることでしょう」と。私も同感です。

いままでに経験したことがないことに向き合う時、自分の力以上のものに挑戦しようとする時、私たちは肩に力を入れて萎縮しがちです。「ああ、これはダメだ」と思った瞬間、脳は委縮して、持っている能力の半分も発揮できないでしょう。100%の力を発揮するために、“*Oh, it's so easy*”は特効薬です。これは数学だけではなく人生すべてに有効です。

皆さんは、これから始まる大学生活で、さまざまな新しい場面に遭遇されるでしょう。高校時代の学びとは違った学びが待っています。そんな時、肩の力を抜いて、“*Oh, it's so easy*”と言ってみましょう。何事にもポジティブに挑戦いたしましょう。きっと今まで気づかなかったあなたの力が発揮できるにちがいありません。

本学では、幅広い分野に科目を設け、皆さんの様々な興味にこたえられる学びの機会を提供しています。この豊かな土壌を作るために、本学が創立以来大切にし、誇りにしているのは少人数教育です。先生と学生の距離が近い本学では、対話を大切にし、お互いに名前呼び合い、キャンパスでも挨拶を交わす声がよく聞こえてきます。教員だけではなく、職員と学生との距離の近さも本学の誇りとするところです。一人ひとりの個性を大切にす本学の教育は、多様性を認め合うこの環境の中で育まれます。

大学は、皆さんが自分で考え、自立するための場なのです。大学が何かをしてくれるだろう・・・と受身では、なにも得ることができません。夢の実現に向けてまずは挑戦してください。私たち教職員は喜んでお手伝いいたします。小さな大学です。いつでも私たちに声をかけてください。

幅広い教養を身につけ、奥の深い研究をし、課外活動にもチャレンジしてください。生涯にわたって信頼できる仲間も増やしてください。4年間の大学生活が、様々な対話と気づきを得る場として有意義で実り多いものとなりますよう祈念して、式辞といたします。

ご入学、真におめでとうございます。

平成30年4月3日
学長 北垣 日出子

[in English]

It is my pleasure to welcome you all here today. Congratulations on taking this new step in your education. In keeping with our university's international name since 2016, we have had the pleasure of welcoming many international students to study here at Kaichi International University. This year we welcome students from China, Vietnam, Nepal, Sri Lanka, Uzbekistan, Bangladesh, and of course from Japan.

International students study Japanese language, culture, and history, and become part of the local community. Japanese students become friends with international students and share culture and language; studying and growing together and learning from one another.

I would like to mention the renowned Japanese mathematician and essayist Masahiko Fujiwara. Professor Fujiwara held a public discussion with television personality, movie director, and mathematics enthusiast Takeshi Kitano on the beauty and attraction of the science of mathematics.

Professor Fujiwara commented: “when trying to solve a mathematical problem, the solution is not always immediately apparent, and calculations may take a long time, in some instances, a number of years to perform, and so concentration and resolve are required to see the challenge through. World renowned researchers praised as ‘geniuses’ often reflect on years of failure in making their findings. So, we have to be optimistic and think positively in order to achieve our goals.”

In a similar vein, mathematics professor of Stanford University and Fields Medal recipient, the late Paul Cohen, apparently remarked “Oh, it's so easy!” whenever he was presented with a difficult mathematical problem. Naturally the solution did not always present itself immediately, but by remaining positive and confident he was never intimidated by the task at hand and his intellect could work on the problem unhindered by pessimistic

thoughts. I personally believe that we should all say “Oh, it’s so easy!” whenever life presents us with a problem.

You will all be presented with various challenges during the coming four years. For example, you may encounter a book containing many Japanese characters that you are unfamiliar with and think that it is impossible for you to read. At times like these, remember to say “Oh, it’s so easy!” to relax yourself and create a positive mindset. Optimism will help you succeed in your studies and in your life in general.

I hope you will make the most of your four years here at our university: be productive, cultivate yourself, engage in research, join club activities, make lifelong friends, and enjoy yourselves. Remember to be pro-active and always ready to take initiative. I wish you all the very best with your studies!

Thank you and welcome to Kaichi International University!

2018.04.03
President
Kitagaki Hideko